

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年フラワーデザイン
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	春まき1年草播種 キク挿し芽 切り花の定植準備	アスター、ベニバナの播種 秋ギク挿し芽 施肥、耕耘、畝成形、マルチ、 土壌消毒	26	○	○	○	
	5	春まき1年草、夏ギク等の定植	アスター、トルコギキョウ、 夏ギク等の定植					
	6	球根類の定植 栽培管理	グラジオラス等の定植 追肥、灌水、摘芯、整枝、摘 蕾、病虫害防除、品質保持剤					
	7	秋ギク等の定植 春まき1年草等の採花、	秋ギク等の定植 ベニバナ、ヒマワリ等の採					

二 学 期	8	販売	花・花組、販売				
	9						
	10	期 末 考 査					
	11	春まき1年草、夏ギクの採花・花組、販売	アスター、夏輪ギク、夏小ギクの採花・花組、販売	30	○	○	○
	12	秋まき1年草の播種	ストック、キンギョソウ、スターチス等の播種				
		ユリ等の球根堀上げ	ユリ、グラジオラス等の球根の堀上げ、保管・管理				
	1	秋まき1年草の定植	夏親キク株の移植				
	2	球根類の定植	ストック、キンギョソウ、スターチス等の定植				
	3	栽培管理	チューリップ、フリージア、ダッチアイリス等の定植。				
			追肥、灌水、保温シート、病害虫防除。				
三 学 期			夏ギクの挿し穂1次				
		期 末 考 査					
		栽培管理	追肥、灌水、加温、病害虫防除。	14	○	○	○
		チューリップ、秋まき1年草等の採花、販売	植物ホルモン剤の利用				
			キンギョソウ、チューリップ、ダッチアイリス、ストック等の採花・花組、販売				
			夏キクの挿し芽				
		学 年 末 考 査					

計 7 0 時間 (50 分授業)

4 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花の生態を理解しようとしている。各実習の目的と理由を理解し、その方法・技術を身につけようとしている。	草花の生理・生態について正しく理解し、それに伴う管理技術のポイントを判断できる。またその判断を相手に伝えようとしている。	草花の生態や管理について興味関心を持ち、主体的に調べ、また実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 期末・学年考査) ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 期末・学年考査) ・授業中の発言 ・レポートの作成状況 ・実習手帳の状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・実習手帳の状況 ・農業鑑定の状況 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・手帳の記入・提出
- ・レポート・課題の作成・提出
- ・

6 担当者からの一言

切り花の播種から栽培管理、さらに採花から販売までを一貫して学習します。植物を相手にする授業なので、長期休業中や放課後も圃場に足を運び、草花の状況を観察し、次回の実習に備える姿勢を身につけて欲しいです。

(担当 :)

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	造園技能検定3級	プロの庭師に習いながら （ものづくりマイスター 制度）3級課題の施工を繰 り返し行い、技術を身につ ける。	21	○	○	○	○物作りマイスター制 度の活用 ○造園樹木調査を実施 ○樹木鑑定テスト実施 ○過去問の小テスト
	5	・丁張と整地の方法						
	6	・竹垣の製作						
	7	・縁石及び敷石の敷設						
	7	・植栽について	校庭にある対象樹木の枝 葉を採取し学習する。 筆記試験に向けた学習を 雨天時に行う。			○		
8	・樹木の種類について	○						
		・正誤試験について			○			
		定期考査（1学期期末）			○	○	○	
	8		テスト返却・解答・復習					

2 学 期	9	管理実習 ・樹木の剪定 ・生垣の刈込 ・被覆植物の草刈 ・刈払機による除草	工具の使用方や管理実習に必要な用具を確認する。 校庭の樹木を剪定, 刈込し管理技術を学ぶ。	1 0	○	○	○	○造園樹木の剪定、刈り込み 実習
	10 11	安全について ・ヒューマンエラー ・ハインリッヒの法則 ・KYT ・5S ・造園作業における事故	造園実習においてどのような危険が潜んでいるか検討する。 実際の実習現場でKYTを行い、事故を未然に防ぐ。		○	○	○	○造園樹木の剪定、刈り込み実習
	12	定期考査（2学期期末） ミニ門松作り ・マツの採集 ・竹の斜め切り ・男結び	テスト返却・解答・復習 シニアアクティブ事業に向けてミニ門松の製作を繰り返し行い、参加される方に指導できるように学習する。	2 5	○	○	○ ○	○ロープワーク実習
3 学 期	1 2 3	雪吊り/冬囲い ・低木、常緑樹、生け垣 学年末考査	冬の管理作業 学校敷地内の冬囲いを行う。 (テスト返却・解答・復習)	14	○ ○	○ ○	○ ○	○ロープワーク実習

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術を身に付けている。	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 関連する検定、課題・提出物等

造園技能検定（3級、2級）

造園施工管理技術検定（2級 筆記試験）

6 担当者からのメッセージ

- ・季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ・天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。
- ・樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ・指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年フラワーデザイン
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 草花を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 草花の生産と経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	春まき1年草播種、キク挿し芽 切り花の定植準備	アスター・ヒマワリ等の播種、秋ギク・寒ギクの挿し芽 施肥、耕耘、畝成形、マルチ	26	○	○	○	堆肥・肥料・石灰散布、畝立て、マルチ 採花・花組・販売 挿し芽・定植、栽培管理 周辺地域への販売
	5	春まき1年草、夏ギク等の定植 栽培管理	土壌消毒 アスター苗、夏ギク、トルコギキョウ等の定植					
	6	秋ギク等の定植 春まき1年草等の採花、販売	追肥、灌水、摘芯、整枝、摘蕾、病虫害防除、品質保持剤 秋ギク等の定植					

二 学 期	7		ヒマワリ・スターチス等の 採花・花組、販売					
		期 末 考 査						
		寒ギクの定植	寒輪ギク、寒スプレーギク の定植					
	8	春まき 1 年草、夏ギクの採	アスター、夏輪ギク、夏小	30	○	○	○	栽培管理から販売 冷蔵庫と品質保持剤 の活用
	9	花・花組、販売	ギクの採花・花組、販売					
		秋まき 1 年草の播種	ストック、キンギョソウ、 スターチス等の播種					
	10	ユリ等の球根堀上げ	ユリ、グラジオラス等の球 根の堀上げ・保管・低温処 理					
	11	秋まき 1 年草の定植	ストック、キンギョソ ウ、スターチス等の定植					
	12	期 末 考 査						
	1	球根類の定植	チューリップ、フリース ア、ダッチアイリス等の定 植。	14	○	○	○	ハウス施設の管理と 運用
	2	栽培管理	夏ギク挿し穂 1 次 追肥、灌水、保温シート、 病害虫防除。					これまでの学習を基 に、栽培技術、作業体 系、費用、流通、施設 について理解し、一 貫体系を改善する能 力と態度を養う。
	3		キンギョソウ、チューリッ プ、ストック等の採花・花 組、販売					
		学 年 末 考 査						

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	切花栽培に対する知識・技術を 身に付けようとしているか。	草花を観察し、自然分類や園芸 的分類の違いによる時期や管 理の違いを身に付けようとし ているか。	草花を通じて積極的に他者と関 わり、進んで実習に取り組んで いるか。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 期末・学年考査) ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 期末・学年考査) ・授業中の発言 ・レポートの作成 ・実習手帳の状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での協力・周囲を見る目・ 態度 ・実習での正確・効率的な取り 組み ・実習手帳の状況 ・農業鑑定の状況 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・実習手帳の記入・提出
・レポート・課題の作成・提出・農業鑑定
・

6 担当者からの一言

2 学年で学習してきた基本的な栽培学習を踏まえ、各植物の特性に応じた栽培管理の理論と技術を学ぶ。更に高品質な切り花の生産から販売技術までを習得する。

(担当 :)

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	整地作業実習	2学年で学習した水準測量の技術を応用し均一な高さで整地作業する。	14	○	○	○	○「測量」教科書使用 ○レベルの整準、 標尺読定小テストを実施
	5	・レベルと標尺の取り扱い ・地盤高の算出 ・整地作業						
	6	安全について ・ヒューマンエラー ・ハインリッヒの法則 ・造園作業における事故	造園実習においてどのような危険が潜んでいるか検討する。 実際の実習現場で事故を未然に防ぐ方法と態度を学ぶ。	10	○	○		
	7 8	定期考査（1学期期末）	テスト返却・解答・復習	2	○	○	○	

2 学 期	9	管理実習 ・樹木の剪定 ・生垣の刈込 ・被覆植物の草刈 ・刈払機による除草	工具の使用方法や管理実習に必要な用具を確認する。 校庭の樹木を剪定, 刈込し管理技術を学ぶ。	14	○	○	○	○造園樹木の剪定、刈り込み実習 ○剪定課題を評価
	10							
2 学 期	10	ミニ門松作り ・マツの採集 ・竹の斜め切り ・男結び	シニアアクティブ事業に向けてミニ門松の製作を繰り返し行い、参加される方に指導できるように学習する。	14	○	○	○	○レポート課題 ○ロープワーク実習
	11							
	12	定期考査（2学期期末）	テスト返却・解答・復習	2	○	○	○	
3 学 期	1	雪吊り・冬囲い ・低木、常緑樹、生け垣	冬の管理作業 学校敷地内の冬囲いを行う。	12				○ロープワーク実習
	2	学年末考査	(テスト返却・解答・復習)	2	○	○	○	
	3							

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術を身に付けている。	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	造園に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 関連する検定、課題・提出物等

造園技能検定（３級、２級）

造園施工管理技術検定（２級 筆記試験）

6 担当者からのメッセージ

- ・季節または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ・天候不良時（小雨）でも実習をすることがある。
- ・樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ・指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。

教科(科目)	農業(草花)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年フラワーデザイン
使用教科書	「草花」 実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	草花生産と消費の動向	草花園芸の特徴 草花生産と消費の動向	24	○	○	○	○圃場準備 ○宿根草定植実習 ○球根定植実習
	5	春作業実習 1・2年草栽培実習 球根類栽培実習 生活と草花の利用	宿根草(キク)の生産 1・2年草の生産 球根類の生産 草花の多面的利用 園芸デザイン	28	○	○	○	○1・2年草定植実習 ○施設の暑さ対策
	6	宿根草栽培実習	切り花の採花基準 切り花の採花方法の違い					○切り花の管理実習 ○切り花の採花実習 ○切り花の花組実習 ○切り花の販売実習

二 学 期	7		品質保持剤と品質管理 キク、グラジオラス					
		期 末 考 査						
	8 9 10	草花の特徴と栽培技術 1・2 年草栽培実習 球根類栽培実習 宿根草管理実習	草花の生育と環境 切り花の品質変化 切り花の品質管理技術 品質保持剤	32	○	○	○	○切り花の品質管理 ○切り花の品質保持剤 ○切り花の採花と花組の工夫と商品
		草花の特徴と栽培技術	草花の生育と環境 草花の一生 根の成長、 葉序・光合成		○	○	○	○球根類の低温処理 ○秋まき一年草の播種 ○秋まき一年草の定植 ○秋まき一年草の採花
		1・2 年草栽培実習 宿根草栽培実習	病虫害の防除 雑草の除去					
		中 間 考 査						
	11 12 期 末 考 査	草花の特徴と栽培技術	草花の生育と環境 花序・日長 電照栽培とシェード栽培 植物生長調節物質	28	○	○	○	○球根類の定植 ○球根類の採花 ○施設の防寒対策
		球根類栽培実習 施設の寒害対策	ダッチアイリス、フリーズア					
		期 末 考 査						
		三 学 期	1	草花の特徴と栽培技術	品種改良と繁殖 生育開花調節と作型	28	○	○
2	1・2 年草栽培実習 球根類栽培実習		ユリ、チューリップ					
3	草花の特徴と栽培技術		種子繁殖 栄養繁殖	○	○		○	○キクの挿し穂・挿し芽による苗の増殖
	1・2 年草栽培実習 球根類栽培実習		ストック、キンギョソウ、 スターチス、ヤグルマギク					
学 年 末 考 査								

計 1 4 0 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花に対する知識・技術を身に付けようとしているか。	草花を観察し、花や葉の違いや分類による違いを身に付けようとしているか。	草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいるか。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言 ・レポートの作成状況 ・ノートの提出状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での効率的な取り組み態度 ・栽培植物の投稿状況 ・課題への取組状況 などから、評価します。
------	---	--	---

5 課題・提出物等

・ノートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・栽培植物の投稿
--

6 担当者からの一言

草花の特徴を理解し、栽培、管理の基本的な知識・技術を学びます。販売等の実習を通して切り花の生産から商品としての特性までの基本となる知識・技術を学びます。 (担当 :)
--

教科(科目)	農業(草花)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年フラワーデザイン
使用教科書	「草花」 実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	草花の特徴と栽培技術	草花の生育と栽培技術	18	○	○	○	堆肥・肥料・石灰散布、畝立て、マルチ
	5	宿根草の採花・花組・販売 (ガーベラ・カーネーション) 春蒔き一年草の栽培管理 (アスター・ペニバナ、ヒマワリ)	宿根草・春蒔き一年草の栽培管理から採花・販売までの一連の実習を行なう。 定植の準備 苗の定植					採花・花組・販売 挿し芽・定植、栽培管理 周辺地域への販売

二 学 期	6	草花の特徴と栽培技術 切り花生産	生産施設と栽培環境の調節 切り花生産の特色	12	○	○	○	摘芯・摘蕾・芽かき・ 下葉掻き・追肥
	7	宿根草の栽培管理（キク） 球根類の堀取り（アイリス）	キクの品質管理技術 圃場管理技術					
		宿根草の過繁茂対策技術						
		期 末 考 査						
	9	成長調整剤の使用と防除について	草丈の伸長促進や抑制の必要性について対象植物と照らし合わせながら学ぶ。	9	○	○	○	採花・花組・品質保持剤
		切り花生産	切り花の品質保持 1・2年草の切り花	24	○	○	○	栽培管理から販売
	10	秋・寒キクの栽培管理技術 球根類の堀取り （ユリ・グラジオラス）	摘芯・摘蕾・芽かきの必要性 球根の貯蔵管理技術					
	三 学 期	中 間 考 査						
		切り花生産	宿根草の切り花 球根の切り花	12	○	○	○	球根類の採花 施設の防寒対策
		期 末 考 査						
		切り花生産	花木の切り花	9	○	○	○	
		鉢ものの生産	鉢ものの生産の特色 鉢ものの生産資材と商品化技術 生産と流通の改善	21	○	○	○	
	2	草花経営の改善	これまでの学習を基に、栽培技術、作業体系、費用、流通、施設について理解し、一貫体系を改善する能力と態度を養う。					
		学 年 末 考 査						

計 1 0 5 時間（50 分授業）

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	切花栽培に対する知識・技術を身に付けようとしているか。	草花を観察し、自然分類や園芸的分類の違いによる時期や管理の違いを身に付けようとしているか。	草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいるか。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言 ・レポートの作成 ・ノート of 状況 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での効率的な取り組み態度 ・栽培植物の投稿状況 ・課題への取組状況 などから、評価します。
------	---	---	---

5 課題・提出物等

・ノートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・

6 担当者からの一言

2 学年で学習してきた基本的な栽培学習を踏まえ、各植物の特性に応じた栽培管理の理論と技術を学ぶ。更に高品質な切り花の生産から販売技術までを習得する。 (担当 :)
--

教科(科目)	農業（造園計画）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	造園計画（実教出版）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、造園空間のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5 6 7	造園計画の意義と役割 ・地球環境と造園 ・生活環境と緑地環境 ・造園計画と造園空間	人と自然が共生する環境を知り、それに基づいて造成・管理するための基礎を学習する。 造園デザインや造園設計での図面の描き方について人間生活に密接に関わる住宅庭園、学校等について学習する。	18	○	○		
		造園デザインと造園製図 ・造園デザイン ・造園製図（演習）	CAD ソフトを用い設計の基礎を学び演習を行う。	18	○	○	○	CAD 演習（操作方法の基礎） CAD 演習課題（基本図形作成） CAD 演習（デザイン演習）
	定期考査（1学期末）			1	○	○		
	8 9 10	・造園製図（演習）	建築 CAD 検定4級程度までの知識・技術を学習する。	22	○	○	○	CAD 演習課題（4級程度）
2	定期考査（2学期中間）			1	○	○		CAD 実技試験
	10 11 12	・造園製図（演習）	建築 CAD 検定3級程度までの知識・技術を学習する。	25	○	○	○	CAD 演習課題（3級程度）
	定期考査（2学期末）			1	○	○		CAD 実技試験
	1 2 3	造園計画の実践 ・個人住宅庭園の計画・設計	CAD ソフトを活用し個人住宅および個人住宅庭園の設計を学ぶ	18	○	○	○	CAD 演習課題（個人住宅と庭園）
定期考査（学年末）			1	○	○			

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 造園計画・設計の特性を理解し、目的に沿った製図実習等を行っている。 - 授業内容を応用し、計画・設計作業に対し、基本的な技術を身につけようとしている。	- 製図やデザインの基礎を理解し、計画・設計の過程で正しく表現している。 - 造園製図において、合理的な手順、方法を選択し、効率よく作図しようとしている。	- 植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しく判断している。 - 作図方法を工夫し、最適な処理方法を組み合わせ図面作成しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・提出課題の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ C A D 演習課題（10 課題程度）の提出があります。
- ・ 定期考査で実技考査をする場合があります。

6 担当者からの一言

デザインに関する基礎的な知識や C A D ソフトの操作技術は、造園分野だけでなく、測量、設計、建築等幅広い分野で用いられます。それぞれの分野の内容は、相互に関係しています。造園分野の設計を学ぶことで、土木・建築分野にも通用するスキルを身につけることができます。

教科(科目)	農業（造園施工管理）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	造園施工管理（文部科学省）				
副教材等	配付プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- (1) 造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	◎造園技術で扱う道具について	・造園技術で扱う道具についてスケッチなどを行う。	21	○		○	○造園樹木の掘取り、根巻き、移植実習 ○校地内樹木の剪定・刈り込み実習 ○3級造園技能士検定の実技練習（8月実技試験）
	5	◎造園施工管理の意義と役割	・日本庭園等の作庭技術を行う。		○	○	○	
	6	1 社会環境と造園施工管理	を 理解し、これらの造園施工		○	○	○	
	7	2 造園施工管理の意義 3 施工管理の特色と役割 4 造園空間の新たな管理手法 ◎造園材料の種類と特性 1 石材 (1)岩石の種類 定期考査（1学期期末）	管理の特色と役割について学習する。 ・各種造園材料の持つ特性を理解し、造園空間の目的に応じた活用ができるように学習を進める。 (テスト返却、解答、復習)		○	○	○	
2 学期	8	(2)自然石材		5	○	○	○	
	9	(3)加工石材						
	10	2 木材・竹材 (1)木材 (2)竹材		25	○	○	○	○造園樹木の剪定、仕立て実習 ○造園樹木の雪吊り、冬囲い実習
	11	3 金属材料・コンクリート材料、コンクリート二次製品、窯製品、そのほかの造園材料	・各種造園材料の持つ特性を理解し、造園空間の目的に応じた活用ができるように学習を進める。					
3 学期	12	定期考査（2学期期末） ◎造園土木施工 1 敷地の造成と土壌の改良	(テスト返却・解答・復習) ・既存の景観を考慮しつつ、造園的な意匠を取り入れた造園計画を学習する。	5				
	1	学年末考査		14	○	○	○	○ロープワーク実習 ○道具の手入れ実習
	2							
	3	◎まとめ	・一年間の復習とまとめ (テスト返却・解答・復習)		○	○	○	

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

6 担当者からのメッセージ

- ① 指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ② 季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③ 天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④ 樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤ 造園技術を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

教科(科目)	農業（造園施工管理）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	造園施工管理（文部科学省）				
副教材等	配付プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ② 地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- (1) 造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	2 コンクリート工	・水景の施工・石積み等において	21	○		○	○造園樹木の掘取り、根巻き、移植実習 ○校地内樹木の剪定・刈り込み実習 ○造園樹木の剪定、仕立て実習
	5	3 給排水工	欠かせないコンクリート工の		○	○	○	
		◎施設施工管理	施工技術について学習する。		○	○	○	
	6	1 園路・広場工	・水景施設や付属施設工事など給排水に関する学習をする。					
	7	2 水景施設工	・公園や庭園内における園路・広場の意義を理解し、その施工に関する内容を学習する。		○			
2 学期	8	定期考査（1学期期末）	・庭園における水のありさまの表現を理解し、その表現を施工するための学習をする。	5		○	○	○造園樹木の整枝、剪定技術の実習
			(テスト返却、解答、復習)		○	○	○	
	9	3 庭園施設工	・伝統的な技術を身につけ、人々の		○	○	○	
	10		要求に対応していける造園					
	11	4 公園施設工	センスを磨くための学習をする。		○	○	○	
	12	定期考査（2学期期末）	・運動施設や公園施設等において	30				○造園樹木の剪定、仕立て実習 ○造園樹木の雪吊り、冬囲い実習
		5 工作物の管理	必要とされるものや規格等に		○		○	
		6 景観の管理	ついて学習する。					
			・各維持管理内容について学習する。					
		◎合理的な施工と管理 ◎造園施工管理の実践	・各種施工を行うための管理技術や施工について学習する。					

3 学 期	1	学年末考査	(テスト返却・解答・復習)	14	○	○	○	○ロープワーク実習 ○道具の手入れ実習
	2							
	3							

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

6 担当者からのメッセージ

- ① 指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ② 季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③ 天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④ 樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤ 造園技術を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

教科(科目)	農業（造園植栽）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	造園植栽（文部科学省）				
副教材等	配付プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ② 地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- (1) 造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期	4	造園植栽管理	実習と座学で樹木の剪定方法や病害虫の防除について実習をつうじて学習する。 また、樹木の仕立て方や農薬の安全管理について座学を中心に学習する。 テスト返却・解答・復習	21	○	○	○	○農業鑑定競技の出題範囲の樹木鑑定テスト実施 ○造園樹木の剪定、刈り込み 実習
	5	・植栽管理の基本						
	6	・樹木の管理 ・農薬の安全管理 ・造園樹木の形状						
	7 8	定期考査（1学期期末）			○	○	○	

2 学 期	9	造園植物 ・造園植物の基本 ・木本植物/高木類, 低木類 ・造園植物と植生 ・造園植物の分類 定期考査（2学期中間）	ICT 機器を活用し樹木の特徴などをスライドにまとめる。また、校庭に植栽されている樹木について学習する。 テスト返却・解答・復習	1 0	○ ○	○ ○	○ ○	○造園樹木調査を実施
	10							
2 学 期	11	造園植栽の意義と役割 ・造園植栽の意義 ・造園植栽の特色と役割 ・植栽と風景 ・植栽に関わる課題	造園植栽の意義・役割や、技術伝承等の課題について学習する。日本の名勝について ICT 機器を利用し、まとめ発表する。		○ ○	○ ○	○ ○	○造園樹木の剪定、刈り込み 実習
	12	造園植栽計画 ・植栽と地域・風景の関連性 ・植物の特性と植栽計画 ・植栽のデザインに向けて ・植栽の機能・効果と植栽構成 定期考査（2学期期末）	造園が有する景観機能、環境機能、活用機能に関して学習する。 管理作業等によって生じた廃材をどのようにして、有効活用できるか検討し、まとめ発表する。 テスト返却・解答・復習	2 5	○ ○	○ ○	○ ○	
3 学 期	1	雪吊り/冬囲い	冬の管理作業				○	○ロープワーク実習
	2	身近な造園空間の植栽管理	学校敷地内の環境整備に学ぶ	14	○	○	○	
	3	学年末考査	(テスト返却・解答・復習)		○	○	○	

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認などから、評価します。
------	---	---	---

5 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

6 担当者からのメッセージ

- ・季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ・天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。
- ・樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ・造園植栽を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

教科(科目)	農業（測量）	単位数	2単位	学年(コース)	2 学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	実教出版「測量」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③ 社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ④ 地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

測量に必要な知識と技術を習得させ、測定機器の特質と地理空間情報の処理と利用について理解させるとともに、環境保全や農林業に応用する能力と態度を育てる。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
	4 5	測量を学ぶにあたって 第1章 距離測量 (1) 距離測量用器具 (2) 距離の測定 (3) 測距器械による距離の測定	・測量技術は私たちの生活をさせていることを理解する。 ・距離の概念を理解させ、距離測量の器具や実際の測距方法について学ぶ。	8	○ ○ ○	○ ○	○	巻尺の各種補正計算ができる
	6 7	第4章 細部測量 (1) 平板測量の器具 (2) 平板測量の方法 (3) 平板を用いた細部測量	・平板測量の器具。設置方法を理解する。 ・骨組測量としての道線法を理解する。 ・細部測量としての放射法を理解する。	16	○	○	○	授業時間のおおよそ半分を実習とする
		1 学期末考査（および返却）		2	○	○		
	9 10	第5章 水準測量 (1) 水準測量の用語 (2) 水準測量の器械・器具 (3) レベルの検査・調整 (4) 水準測量の方法	・レベルの種類、構造を理解する。 ・水準測量の器械・器具の取扱について実習し、実際の測量方法を理解する。	14	○	○	○	授業時間のおおよそ半分を実習とする
		2 学期中間考査（および返却）		2	○	○		
	11 12	第7章 面積および体積 (1) 面積の計算 第9章 地形測量 (1) 地形図 (2) 地形測量の順序	・計算過程とその理論を理解し、適切な計算方法を身に付ける。 ・地形測量が、各測量の総合的な測量であることを理解する。	14	○	○	○	三角区分法、座標法による計算
		2 学期末考査（および返却）		2	○	○		

1 2	第 13 章測量技術の応用と自然災害 (1) 地理情報システム (GIS) (2) 測量技術と自然災害	・コンピュータを用いて、GSI 環境を体験し学びを深める。 ・ GSI を活用できる技術を身につける。	1 0	○	○	○	iPad、CADパソコンを活用
	3 学期末考査		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、測量技術を探求しようとしている。	測量に関する知識と技術を活用して適切な判断を行い、導き出される考え方を的確に表現しようとしている。	測量に関心や探求心をもち、実習において自ら積極的に役割を担い、主体的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・ プリントやレポート、測量結果などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査の分析 ・ 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・ プリントやレポート、測量結果などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・ 実習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 平板測量、水準測量では、班に分かれて実習し図面や成果票を作成、提出します。
- ・ 測量成果を計算するためにコンピュータを活用し、その結果を提出します。

6 担当者からの一言

測量技術は、設計、建築、学術研究、専門・技術サービス業等幅広い分野で用いられます。土木・建築分野において、すべての工程のスタートが測量作業となります。近年では、災害対策、復興支援などで測量技術が注目されるようになってきました。私たちが普段何気なく使っているナビゲーションシステムや地図アプリも測量技術の一端です。

教科(科目)	地域資源活用	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻
使用教科書	実教出版『地域資源活用』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

地域資源を有効に活用する活動に必要な知識と技術を習得させ、農業や農村の持つ多面的な機能と対人サービスの特性を理解させるとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を育てる。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1学期	4	第1章 グリーンライフとは	・人間生活とグリーンライフ ・農山村と都市の現状と変化	22	○			○グリーンライフの必要性について学習します。 ○グリーンライフの動向、実践例について学習します。
	5				○			
	6		・地域社会の変化と社会的起業活動		○	○		
	7		・グリーンライフ推進のための方策		○			
		1学期末考査（および返却・解説）		2	○	○		

2 学 期	9	第2章 農林業・農山村の魅力 と地域づくり	・農林業・農山村の魅力 ・身近な地域資源の発見と 活用	16	○ ○	○	○	○地域資源の利活用 方法について学びま す。 ○地域農産物の活用 例を学びます。
	10	2学期中間考査（および返却・解説）		2	○	○		
	11		・農山村の資源と景観の特 質 ・地域づくりとグリーンラ イフ活動	14	○ ○	○	○	○地域で行われてい る祭礼や郷土芸能に ついて学びます。
	12	2学期末考査（および返却・解説）		2	○	○		
3 学 期	1	第3章 グリーンライフ活動	・都市と農山村の共生・対 流にみるグリーンライフ 活動 ・グリーン・ツーリズムの 取り組み ・農林業体験	10	○		○	○農業・農村体験の 企画と指導に必要な 知識を学びます。 ○農業・農村の総合 的な活用方法を学 び、次年度のグリー ン・ツーリズムの企画 につなげます。
	2							
		3学期末考査（および返却・解説）		2	○	○		

計 70 時間（50 分授業）

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	農村や農業の持つ資源や役割・ 機能に関する知識を身につけ、 多面的な機能を活用した活動 を理解している。地元の資源を 活用する方法を身につけるこ とができる。	農業、農村の持つ魅力を再発見 し、対人サービスとの関連を考 察し、課題を適切に判断し、課 題の解決を図るためのアイデ ィアを提案することができる。	農業の多面的機能や交流・余暇 活動に興味・関心を持ち、課題 の解決を図るための具体的な 活動計画を作成することがで きる。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート ・ 課題に取り組む態度 などから、評価します。
------	---	---	--

5 課題・提出物等

・ 学習課題レポートは、地域資源を活用した商品開発（企画・計画の立案）、広報・宣伝活動（ポスター作成、POP 作成、WEB デザインなど）をテーマとして取り組みます。

6 担当者からの一言

グリーンライフは地域の人々と関わり、地域について学ぶ授業です。また「おもてなしの心」を大切に
した対人サービスについても学びます。社会に出ても恥ずかしくない「マナー」や「コミュニケーション
能力」についても学びますので普段の授業から正しい服装、言葉遣い、態度を心掛けてください。

教科（科目）	農業（生物活用）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年（フラワーデザイン）
使用教科書	実教出版『生物活用』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ⑤ 地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学期		生物活用の意義と役割	○生物活用の意義と役割	6		○	○	レポート
		園芸作物の栽培と利用	○生物活用とプロジェクト学習	15	○	○	○	レポート・作品
	4		○植物・園芸と人間生活					
	5		○野菜・ハーブの栽培と活用					
	6		・ハーブの種類と特製					
	7		・ハーブの栽培					
			・ハーブの利用					
			・野菜の種類と特製					
		定期考査		1	○	○		
2 学		園芸作物の栽培と活用	○野菜・ハーブの栽培と活用	12		○	○	レポート
			・野菜の種類と特製					

期	8 9 10 11 12	・野菜の栽培 ・野菜の加工・利用 ○草花の栽培と活用 ・草花の種類と特製 ・園芸デザイン ・花壇の活用と管理 ・フラワーデザイン	17	○	○	○	レポート・作品	
	定期考査		1	○	○			
3 学 期	1	園芸作物の栽培と活用	・フラワーデザイン	11	○	○	○	レポート・作品
	2 3	動物の飼育と活用	○動物と人間生活 ○イヌの飼育と活用	6		○	○	レポート
	定期考査		1	○	○			

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・必要な知識や技術を持ち、自分の感性に従った、感性豊かな作品をつくっている。 ・生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	・感性を豊かにし、創造したり表現したりしようとしている。図や文字で自らの感性を表現している。 ・生物活用に関する課題に対して創造的に解決しようとしている。	・思いや考えや感覚を広げたり深めたりしながら、自ら進んで積極的に学んだり、意識を高めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) 中間考査の代替として作品の提出 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や作業など、取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

レポートや作品の提出があります。

6 担当者からの一言

私たちを取りまく社会に危機を感じ、心を豊かにする「いのちの教育」への関心が高まる中、感性を養う能力が大切になります。人間らしさ、創造性、思いやりのあるケア、人間の健康への貢献など、人間として大切なことを思い出していきます。それらをベースにして生物活用に関する実践力を身につけます。

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年草花園芸
使用教科書	「生物活用」実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、園芸作物の活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)生物活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	生物活用の意義と役割	・生物活用の意義と役割 ・植物・園芸と人間生活	12	○	○		主な実習内容 ・大型プランターの作成 ・花壇苗管理 ・草花の寄せ植え
	5	生物を活用とした療法	・生物を活用とした療法		○		○	
	6	園芸作物と栽培	・草花の栽培と活用 ①草花の種類と特性 ②園芸デザイン	14	○	○	○	
	7					○		

		期 末 考 査			○	○		
二 学 期	8	園芸作物の栽培と活用	③花壇の活用と管理 ④室内園芸装飾 ⑤フラワーデザイン	16				・花壇苗管理 ・ 交流活動の準備
	9		・ 交流活動の実施 ①交流活動の実施の流れ ②計画の立案					
	10	生物活用の実際			○	○	○	
	11							
	12							
		園芸作物の栽培と活用 (続き)	②活動のまとめ ・ 草花の栽培と活用(続き) ⑥地域緑化、都市緑化	14	○	○	○	・ 黒埼花壇植え込み ・ シクラメン寄せ植え
					○	○	○	
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期	1	生物活用の実践(続き)	②活動のまとめ	14	○	○	○	・ 花壇苗管理 ・ 寄せ植え
	2	園芸作物の栽培と活用	・ 野菜・ハーブの栽培と活用					
		学 年 末 考 査		70	○	○		

計 7 0 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	園芸作物の繁殖、栽培管理など園芸作物に関する基本的な知識や技術を身につけている。交流活動やその事例を通して、園芸活動が生活を豊かにし、人の身体や精神回復に役立っていることを理解している。	園芸作物の栽培や管理に関して思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	園芸作物の生産性や品質向上のために自ら考えて取り組むことができる。園芸活動を活用した交流活動など園芸作物の活用に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 学習状況の観察 ・ 定期考査の結果 ・ レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 学習状況の観察 ・ 定期考査の結果 ・ レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 振り返りシートや自己評価票の分析 ・ 学習状況の観察 ・ レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ レポート・課題の作成、提出
- ・ ノートの記述、提出
- ・

5 担当者からの一言

園芸作物の活用方法について、その特性や栽培技術、活用を体験的に学習します。さらに校外活動や寄せ植え体験講座などの学習を通して、園芸作物の活用に必要な知識と技術を身につけます。植物や動物を効果的に活用することは、私たちの生活の質の向上や健康の改善の向上に必要であることを理解していきましょう。

教科(科目)	農業(生物活用)	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(フラワーデザイン)
使用教科書	実教出版『生物活用』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③ 地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1学期	4 5 6 7	草花の栽培と利用	○フラワーデザイン ・歴史と種類 ・活用方法 ・フラワーデザインを通じた交流活動 ・フラワーデザインに適した草花 ・花材の形態と使い方 ・花材の水あげ ・フラワーデザインに使用する器具 ・アレンジメントとの手順と基本的なスタイル ・アレンジメントの制作	33	○	○	○	レポート・作品

		野菜・ハーブの栽培と活用	○ハーブの栽培 ○ハーブの利用 ○コンテナ栽培	10	○	○	○	レポート・作品
		定期考査		1	○	○		
2 学 期		草花の栽培と利用	○フラワーデザイン ・コサージュとブーケの制作 ・代表的なワイヤリングの方法	43	○	○	○	レポート・作品
	8							
	9							
	10		・コサージュの制作					
	11		・リースの制作					
	12	野菜・ハーブの栽培と活用	・ドライフラワーの制作	10		○	○	レポート
			○キッチンガーデン	6		○	○	レポート
		生物を活用した療法	○生物を活用した療法 ○園芸療法					
		定期考査		1	○	○		
3 学 期		草花の栽培と利用	○フラワーデザイン ・ドライフラワーの制作 ・押し花の制作	30	○	○	○	レポート・作品
	1							
	2							
	3	生物を活用した療法・生物活用の実践	○動物介在療法 ○交流活動の心構え	5		○	○	レポート
		定期考査		1	○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 必要な知識や技術を持ち、自分の感性に従った、感性豊かな作品をつくっている。 - 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	- 感性を豊かにし、創造したり表現したりしようとしている。図や文字で自らの感性を表現している。 - 生物活用に関する課題に対して創造的に解決しようとしている。	思いや考えや感覚を広げたり深めたりしながら、自ら進んで積極的に学んだり、意識を高めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) 中間考査の代替として作品の提出 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や作業など、取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

レポートや作品の提出があります。

6 担当者からの一言

私たちを取りまく社会に危機を感じ、心を豊かにする「いのちの教育」への関心が高まる中、感性を養う能力が大切になります。人間らしさ、創造性、思いやりのあるケア、人間の健康への貢献など、人間として大切なことを思い出していきます。それらをベースにして生物活用に関する実践力を身につけます。

教科(科目)	総合実習	単位数	2 単位	学年(コース)	3 学年 草花園芸専攻
使用教科書	実教出版「草花」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 學習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野のかい改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	授業計画	学習内容	時 間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4	花壇用苗物・鉢花の生産 管理 鉢花の生産計画作成	花壇用苗物のポット上げ 鉢花の生産管理 鉢花の播種・育苗	26	○	○	○	主な実習内容 ・花壇苗生産・管理 ・シクラメン生産・管 理 ・草花販売 ・寄せ植え体験講座
	5	鉢花の活用、鉢花の生産 草花の活用	鉢花のポット上げ・鉢上げ 鉢花の販売 プランターへの植え込み・ 設置					
	6	鉢花の生産管理	鉢花の品質管理・販売・出荷					
	7	夏季の草花管理						
		期 末 考 査			○	○		
2	8	鉢花の生産管理	鉢花の生産管理	30	○	○	○	主な実習内容

	9		秋・冬用草花の播種・育苗					・シクラメン生産・管理 ・鉢花生産・管理 ・草花販売
	10		高温期の草花の生産管理					
	11		秋・冬用草花の品質管理と販売・出荷					
	12							
		期 末 考 査			○	○		
	1	鉢花の生産管理 施設の活用 花壇用草花の生産管理 まとめ	鉢花の生産管理 春用草花の播種・育苗 3年間の学習のまとめ	14	○	○	○	主な実習内容 ・鉢花生産・管理 ・草花販売
	2							
		学 年 末 考 査						

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花の生態を理解しようとしている。各実習の目的と理由を理解し、その方法・技術を身につけようとしている。	草花の生理・生態について正しく理解し、それに伴う管理技術のポイントを判断できる。またその判断を相手に伝えようとしている。	草花の生態や管理について興味関心を持ち、主体的に調べ、また実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの状況 ・農業鑑定 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・レポート、課題の作成・提出

5 担当者からの一言

長期休業中の実習も行います。意欲的に授業に参加し、積極的に学習成果を外部へ発信することで、確実に学習効果が上がると思います。そんな姿勢で授業に臨んでほしいと思っています。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年草花園芸専攻
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	花壇用苗物・鉢花の生産管理 鉢花の生産計画作成	- 花壇用苗物のポット上げ - 鉢花の生産管理 - 鉢花の播種・育苗 - シクラメンのポット上げ、	26	○	○	○	複数の花壇苗や鉢花の栽培管理、販売実習を通年おこなう。 中核鉢花であるシクラメンの栽培管理を通年行うことで、草花の栽培に必要な知識と技術を身につける。
	5	鉢花の活用、鉢花の生産 草花の活用	- 追肥、かん水 - 鉢花のポット上げ・鉢上げ - 鉢花の販売					
	6	花壇の植え込み	プランターへの植え込み・設置					
	7	鉢花の生産管理 夏季の草花管理	- 花壇の設計・施工 - 鉢花の品質管理・販売・出荷					

	8		・用土づくり、用土詰め					
	9							
	10							
	期 末 考 査							
二 学 期	11	鉢花の生産管理	・秋・冬用草花の播種・育苗 (プリムラ類、サイネリア、 ビオラ、デージー、シロタエ ギクなど) ・高温期の草花の生産管理 ・秋・冬用草花の品質管理と 販売・出荷 ・スパティフィラムの株分け ・シクラメンの葉組み、植物 ホルモンの散布、殺菌剤の散 布 ・シクラメン、ビオラなどの 冬の花を用いた寄せ植えの作 成および地域との交流活動 ・シクラメンの栽培特性を習 得し、販売実習をおこなう。 ・用土づくり、用土詰め	30	○	○	○	・サクラソウ科の植物 やパンジー、ビオラな どの秋から冬にかけ て栽培する草花の播 種および管理。 生産量の多い草花の箱 まき体験と育苗技術の 習得。 葉組みやジベレリン処 理など品質向上に向け た実習。
	12	秋まき 1 年草の栽培管 理						
		花壇の作成						
		観葉植物の繁殖						
		シクラメンの栽培管理						
		シクラメンの寄せ植え 作成						
		シクラメンの販売						
	1							
2								
3								
期 末 考 査								
三 学 期		春の花壇苗、鉢花の準備 施設の活用	春用草花の播種・育苗 (ジニア、ベゴニア、マリー ゴールド、サルビア) 科目「草花」、「課題研究」と 連携し、鉢花の管理能力と利 用法について技量を高め、次 年度への準備をおこなう。	14	○	○	○	地域へ供給する花壇苗 や課題研究で利用する 植物の栽培管理。
		鉢花の活用 花壇用草花の生産管理 まとめ						
	学 年 末 考 査							

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	草花の生態を理解しようとして いる。各実習の目的と理由を 理解し、その方法・技術を身に つけようとしている。	草花の生理・生態について正し く理解し、それに伴う管理技術 のポイントを判断できる。また その判断を相手に伝えようと している。	草花の生態や管理について興 味関心を持ち、主体的に調べ、 また実習に意欲的に取り組む 姿勢が見られる。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの状況 ・農業鑑定の状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・レポート・課題の作成・提出
・農業鑑定

5 担当者からの一言

鉢花は多様な種類があり、栽培・繁殖方法も多岐にわたります。花の種類に応じた管理が求められます。鉢花はハウスなどの施設を使い分ける、生育状態に報じた施肥など、植物の状態をよく観察する力が大切になります。また、販売や土づくりなど協力する力が効率よく実習を行う上で求められます。

長期休業中の実習も行います。意欲的に授業に参加し、積極的に学習成果を外部へ発信することで、確実に学習効果が上がると思います。そのような姿勢で授業に臨んでください。

教科(科目)	農業（草花）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年草花園芸
使用教科書	「草花」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	草花生産と消費の動向	・草花園芸の特徴 ①草花生産と経営 ②草花の種類 ③草花の生産形態	24	○	○	○	主な実習内容 ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン用土作り ・シクラメンポット上げ ・鉢花の鉢あげ、販売
	5							
	6	草花の特徴と栽培技術	・草花生産と消費の動向 ①草花生産の動向	28	○	○	○	・追肥、農薬散布 ・ほ場での観察と実習

	7		②消費の動向 ・草花の生育と環境 ①草花の一生 ②根の生長と養分吸収		○	○	○	・シクラメン鉢上げ ・秋花壇苗生産 (ビオラ・ハボタン等)
		期 末 考 査			○	○		
二 学 期	8		③シュートの成長と光合成 ④花芽分化と発達 ⑤生育開花調節と作型	16				・ほ場での観察と実習 ・底面給水皿の設置
	9	鉢ものの生産	・鉢物生産の特色 ①鉢花 ・鉢花		○	○	○	・シクラメンの葉組み ・観葉植物の株分け ・花壇の作成
	10		②シクラメン		○	○	○	
	11		・鉢花 ②シクラメン ・品種改良と繁殖 ①草花の品種と品種改良 ②品種改良の手順と方法 ③草花の繁殖方法 ④種子繁殖	44	○ ○	○ ○	○ ○	
	12	草花の特徴と栽培技術 (続き)						
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期	1	草花の特徴と栽培技術 (続き)	⑤栄養繁殖	24	○	○	○	・シクラメンを自宅に持ち帰り、追肥、葉組などの管理を行う
	2		・草花の生育と栽培環境 ①草花の生育と土・水・肥料 ②草花の栽培管理		○	○	○	・ほ場での観察と実習
	3				○	○	○	・花壇苗の播種、ポットあげ等の生産管理
		学 年 末 考 査			○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花の繁殖、栽培管理など草花に関する基本的な知識や技術を習得する。	草花の繁殖や栽培管理などについて思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	草花の繁殖、栽培管理、利用などに興味や関心を持ち、草花に関する知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、自ら積極的に取り組む態度を身につけている。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組む状況・内容確認 ・ノートの記事 などから、評価します。
------	---	--	--

4 課題・提出物等

・ レポートや課題の作成、提出 ・ シクラメンの病害虫調べ学習レポート ・ 花の調査レポート 1 学期、2 学期
--

5 担当者からの一言

草花の栽培について全般的に学習し、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識・技術を身につけるため、シクラメンを中心とした用土作りや各種栽培管理、販売までを一貫して学習します。

教科(科目)	草花	単位数	4単位	学年(コース)	3学年環境科学科 草花園芸専攻
使用教科書	「草花」 実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ④ 課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1)草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2)草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3)草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4	第7章花壇用草花生産 1 花壇草花生産の特色	①花壇用草花生産の経営 ②花壇用草花の種類 ③花壇用草花の栽培と商品化	20	○	○	○	主な実習内容 ・ほ場での観察と実習 ・花壇用草花の管理・販売 ・シクラメン管理実習
	5							
	6	3 花壇用草花の栽培 (続き)	①ペチュニア ④ベゴニア ⑥ その他の花壇用草花	24				
	7	第6章 鉢ものの生産 1 鉢ものの生産の特色 2 鉢ものの生産資材と商品化技術						
		期 末 考 査			○	○		
2	8	3花鉢もの	①花鉢ものの種類と特性 ②シクラメン	32	○	○	○	・ほ場での観察と実習 ・シクラメン管理実習
	9	第7章花壇用草花生産 3 花壇用草花の栽培 (続き)	②パンジー・ビオラ ⑤ ハボタン ⑤プリムラ類					
	10							
		中 間 考 査			○	○		
	11	第5章切り花生産 1 切り花生産の特徴 5 球根の切り花	①球根切り花の種類と特性 ③チューリップ ⑦ プリムラ類 ⑧シネラリア (サイネリア)	28	○	○	○	・ほ場での観察と実習 ・シクラメン管理実習
	12	第6章鉢ものの生産 3花鉢もの(続き)						
		期 末 考 査			○	○		
3	1	3花鉢もの(続き)	⑨その他の花鉢もの	36	○	○	○	・ほ場での観察と実習
	2	第4章草花の特徴と栽培技術 4生産施設と栽培環境の調整	② 施設の機能・構造とそ の利用 ②環境調節設備の利用					
		学 年 末 考 査			○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	草花の繁殖、栽培管理など草花に関する基本的な知識や技術を習得する。	草花の繁殖や栽培管理などについて思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	草花の繁殖、栽培管理、利用などに興味や関心を持ち、草花に関する知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、自ら積極的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の分析 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言 ・定期考査の分析 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 ・課題への取組状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・ レポートや課題の作成・提出 ・ ノート記述・提出

5 担当者からの一言

草花の栽培について全般的に学習し、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識・技術を身につけるため、シクラメンを中心とした用土作りや各種栽培管理、販売までを一貫して学習します。

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年草花園芸
使用教科書	「生物活用」実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、園芸作物の活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1)生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)生物活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む

態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	園芸作物の栽培と活用	室内園芸装飾とは ・園芸装飾技能に必要な基礎知識の習得 ・室内環境条件と植物	18	○	○	○	主な実習内容 ・園芸装飾実技実習 ・野菜の播種 ・観葉植物の管理および植え替え
	5							
		中 間 考 査				○	○	

	6	園芸作物の栽培と活用	・室内園芸装飾とは(続き) ・室内環境条件と植物(続き) ・地域緑化,都市緑化 ・野菜・ハーブの栽培と活用	21	○	○	○	・園芸装飾実技実習 ・黒崎花壇の植え込み ・観葉植物の繁殖、管理 ・果菜類、根菜類の栽培、収穫
	7	期 末 考 査			○	○		
二 学 期	8	園芸作物の栽培と活用	・花壇の活用と管理 ・室内環境条件と植物 (続き)	24				・花壇苗管理 ・観葉植物の鉢あげ ・秋野菜の活用方法や貯蔵方法の学習
	9		野菜・ハーブの栽培と活用(続き)		○	○	○	
	10		・室内園芸装飾の活用 こけ玉盆栽の作成					・こけ玉盆栽の準備、計画
	11	園芸作物の栽培と活用	・室内園芸装飾の活用 (続き)	21	○	○	○	・こけ玉盆栽の作成
	12	生物活用の実践	・交流活動の実際 ・活動の振り返り		○	○	○	・文化祭の販売、展示企画、運営
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期		生物活用の実践(続き)	・活動のまとめ	21	○	○	○	・草花、観葉植物の管理
		園芸作物の栽培と活用	・野菜・ハーブの栽培と活用					・野菜の貯蔵と活用について考える
		学 年 末 考 査		70	○	○		

計時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	園芸作物の繁殖、栽培管理など園芸作物に関する基本的な知識や技術を身につけている。 交流活動やその事例を通して、園芸活動が生活を豊かにしていることを理解している。	園芸作物の栽培や管理に関して思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	園芸作物の生産性や品質向上のために自ら考えて取り組むことができる。 園芸活動を活用した交流活動など園芸作物の活用に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ レポート・課題の作成、提出
- ・ ノートの記述、提出
- ・ 作品の作成提出

5 担当者からの一言

園芸作物の活用方法について、その特性や栽培技術、活用を体験的に学習します。さらに室内園芸装飾士や外部企業との花壇作成などの学習を通して、園芸作物の活用に必要な知識と技術を身につけます。植物や動物を効果的に活用することは、私たちの生活の質の向上や健康の改善の向上に必要であることを理解していきましょう。

室内園芸装飾試験は受験料がかかります。